

領域4 インフォーマルミーティング

2008年3月24日(月) 12:30~13:30 WJ会場

代表：樽茶清悟(東大物工) (~2008.9)

副代表：江藤幹雄(慶大理工) (~2009.9)

世話人：熊田倫雄(NTT物性基礎研)、今中康貴(物材機構)、古賀貴亮(北大工) (~2008.4)
遊佐 剛(東北大理)、秋山英文(東大物性研)、河野行雄(理研) (~2008.10)

【報告事項】

1. プログラム小委員会・領域委員会報告 (2007.11.21)

(1) 領域4から提案した講演、シンポジウム併せて9件が採択された。

招待講演3件、企画講演1件、合同シンポジウム2件、若手奨励賞受賞記念講演2件
領域4若手奨励賞紹介1件。

(2) 第3回若手賞のスケジュール変更など

理事会承認を1カ月早める。受賞者への通知は領域代表が行う。

受賞領域名、受賞者氏名・所属、受賞研究対象名を会誌に掲載することを検討。

複数回受賞は認めない。領域規定改変は理事会の判断を仰いで行う。

(3) 招待・企画講演、シンポジウム講演などの提案画面(WEB)を若干変更した。

(4) レビュー講演

アンケート調査の結果を受けて、以下の方針が決められた。

2009年春の年次大会まで現在の形態を継続。次回の領域委員会までに候補者を挙げ、それをもとに領域委員会で講師選定。なお、講演枠には会場校の事情も考慮。

(5) 「世話人」や「インフォーマルミーティング」などの名称を変更してはどうかという提案。

2. プログラム編成会議 (2007.12.13)

今回のプログラム編成会議には、東京近郊の熊田氏、河野氏、今中氏の3名が出席し、プログラム編成、インフォーマルミーティング申し込み等の作業を行った。事前の準備(プログラムの振り分け)には、上記3名に秋山氏、遊佐氏が加わり、電子メールで作業を行った。

領域7から依頼があったグラフィエンの合同セッションに関して領域4、7の世話人で当日話し合った結果、今回は各領域で1つずつグラフィエンのセッション(プログラム上は“領域4、7合同セッション”)を作り、グラフィエン関連の発表はそれぞれ申し込みをした領域の合同セッションにて発表してもらうことにした。

3. 第2回日本物理学会若手奨励賞(領域4)

審査委員会

- 委員長： 前領域4代表 小宮山進（東大院総合）
委員： 現領域4代表 樽茶清悟（東大院物工）
委員： 大塚洋一（筑波大物理学系 & 学際物質科学研究センター）
委員： 大野英男（東北大電気通信研究所）
委員： 永長直人（東大院物工）

平成19年8月16日の締め切り後、応募書類を元に上記の審査委員会にて審議し決定した。ただし、審査委員が候補者と師弟関係または授賞対象論文の共著者となっているケースがあったため、物理学会の規則により当該審査委員はその候補者の審査に加わらなかった。

4. 領域4メーリングリスト（jps-semicon@appi.keio.ac.jp）への参加呼びかけ
学会に関する各種情報や意見の交換が行われるので、学生も含め是非登録をお願いします。メーリングリストとその登録に関しては、領域4のWeb（<http://div.jps.or.jp/r4/index.html>）をご覧ください。

【審議事項】

1. 次期領域代表・副代表（任期：2008.10～2009.9）の確認
代表： 江藤幹雄（慶大理工）
副代表： 平山祥郎（東北大理）
2. 次半期の世話人確認
秋山（物性研）・河野（理研）・遊佐（東北大）（～2008.10）
福田（京大低温セ）・村山（東北大多元研）・川村（東大生産研）（～2009.4）
3. 次々期世話人（任期：2008.11～2009.10）の紹介・承認
鈴木恭一（NTT物性基礎研）、鵜沼毅也（名大工）、山本倫久（東大工）
4. 世話人の仕事分担
・プログラム編成（編成会議への出席は東京近郊の3名程度）
世話人の間で決める。
・領域HPのメンテナンス（1名）
遊佐（1年単位で引き継ぎ）
・シンポジウム、招待講演、企画講演の計画（全員）
1年近くじっくり考え、任期最後の学会で何かを企画することが大変望ましい。
その他：担当の交替の手順について取り決めが必要
5. 領域キーワードの改訂（領域提案の後理事会で承認、2009年春の年次大会から可能）
領域キーワードを現状に合わせて改訂してはどうか。
例 「光応答閉じこめ」を、例えば「光デバイス・光物性」、「光デバイス・光学現象」
「光デバイス・光学過程」など
6. グラフェンの合同セッション（領域4と7）の今後の進め方について
7. その他